

「池田小学校の下門猿の子踊り伝承活動の取組」

1 学校名

指宿市立池田小学校

2 学年・人数

小学1年(3人), 2年(5人), 3年(1人), 4年(7人), 5年(9人), 6年(6人)

3 場所・日時

(1) 練習の日時・場所

場所：池田小学校体育館及び校庭

日時：6月のみ実施, 1～3月は予定

5月9日(10:25～11:10), 6月13日(9:20～10:05), 7月11日(9:20～10:05),
9月12日(9:20～10:05), 9月25日(14:10～14:55), 10月3日(10:25～11:10),
11月6日(14:10～14:55), 11月13日(14:10～14:55), 1月26日(11:35～12:20),
2月13日(9:20～10:05), 2月26日(14:10～14:55), 3月9日(14:10～14:55)

(2) 発表の日時・場所(令和2年度)

- ・令和2年10月4日(13:00～13:25)・池田小学校 校庭(中止)
- ・令和2年12月5日(14:30～15:00)・なのはな館(中止)
- ・令和3年3月13日(10:25～10:50)・池田小学校 体育館(予定)

4 伝承・活用に取り組んでいる伝統芸能, 伝統行事や史跡について

(1) 名称(フリガナ)

下門猿の子踊り(シモノカドサルノコオドリ)

(2) 由来

延享元年2月21日から延享5年7月12日の間(1744年～1748年)のいずれかの年に始まったと伝えられている。

(3) 構成等

「山猿共の里下りの巻」で真っ赤な頭巾, 上衣, ズボンの猿に扮した6歳から14歳までの子どもが20人ほどでいろいろ芸をする。猿使いが2人, 唄はなく鳴物は太鼓・笛・鉦, 今和泉島津忠郷が日向から猿使いを招いて, 春秋2回領民の労をねぎらいために踊らせたと伝えられているが, 猿は山の神, 田の神の使いと考えられていて, やはり農耕祝福行事からはじまったものであろう。

5 保存会や地域との連携の具体

- ・ 指宿市池田小学校区下門地区に「下門猿の子踊り保存会」が組織されている。
- ・ NHKホールで踊って以降、集落内の児童減のために活動を休止。
- ・ 平成26年度当初から、下門公民館長から伝統芸能継承についての相談を受け、10月時点で、保存会長に練習回数等の相談を校長が行い、PTA役員会で提案。提案を受け、「イッシーまつり（学習発表会）」での披露をめざし、10回の練習をする。
- ・ 平成30年度から、PTA及び地域の下承を得て、総合的な学習の時間・生活科における「いぶ好きふるさと学」の一環として通常の教育活動の中で、全児童が学ぶようになった。練習においては、保存会の方々の全面的な協力を受けている。

6 文化財伝承・活用の取組みの工夫した点

- ・ 下門地域の子どもに限定しなかった点。
- ・ PTA会員へ投げかけての活動とし、学校は保存会との連絡調整を図った点。
- ・ 学校の教育活動に取り入れ、全児童で行っている点。
- ・ 保存会を中心として、下門集落の方々の全面的な協力が得られた点。

7 取組の様子（研究発表・創作劇等）

<練習>

<披露>



8 参加児童生徒・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

(保存会)

- ・ 復活を強く願っていたので、学校側の協力を得て取り組むことができてよかった。
- ・ 短い練習時間の中で、子どもたちはしっかりと踊ってくれている。

(児童生徒)

- ・ 自分たちの踊りに校区の方々が大変喜んでくださっている。
- ・ 難しいと思っていたけど、練習を重ねていくとできるようになってうれしい。

(教員)

- ・ 猿の子踊りの動きから、子どもたちの体力面の課題（腕力）を見出すことができている。
- ・ 子どもたちが短期間の練習の中でよく踊れたので感心している。